

第1回八王子市歴史遺産活用検討会  
議事録

日時 平成30年8月29日(水)午後6:30～8:25  
場所 八王子市学園都市センター 第1セミナー室

(1)「歴史を活かした魅力の発信」事業について(資料2)

- ・ 地域型での日本遺産認定を目指すということだが、シリアル型でなく地域型を目指すことにした理由は何か。地域の活性化ということを考えるなら、他市町村を組み合わせるほうが良いのではと感じた。  
→ 有している文化財の関連性という点で、八王子周辺地域との間に顕著なつながりを見いだせなかったのが、シリアル型を目指していない理由の一点。シリアル型だと広域を共通したテーマでつないでいかないといけない。八王子だけでテーマを持ったほうが、より多くの魅力を発信できるのではないかと考えている。(市)

(2) 八王子市の歴史文化について(資料3) 一本市の歴史文化の特徴・魅力は何か一

- ・ 由井地区のページについて、古代の行に「牧場として利用されてきた豊かな環境」として「由比牧」があるが、元八王子地区のページに入れるべき。
- ・ 加住地区のページについて、厳密には、滝山城跡を「山城」と呼ぶのは正しくない。また、当時小規模だった大石氏にここで言及するかは微妙。「関東随一」と謙虚な表現をしなくても、日本有数の規模を持つ中世城郭、として良いのでは。
- ・ 恩方地区のページについて、「武州南一揆を統率した大石氏」とあるが、南一揆と大石氏の関係を統率一被統率と置くべきでない。統率していた証拠はないため、歴史的にみると誤り。大石氏については、実はよく分かっていないことが多いため、南一揆との関係にはあまり触れないほうが良い。南一揆はむしろ多摩川流域なので、どちらかというと西多摩郡や府中に関係すること。
- ・ 「アーネスト・サトウ」が旧八王子地区のページでは近現代に、由木地区のページでは近世に記載されているが、どういうことなのか。  
→ 近世～近現代にまたがって彼のエピソードがあるため。(市)
- ・ 新八王子市史の編さん事業に関わらせてもらった際に、資料集をどのような編成にするかという話になった。旧エリアの区切りは、原始～中世までは関係ないということで、川の流域ごとに編成した。中世以前は、明治時代以降の村や町の括りよりも、丘陵や河川が意識されるのだと思う。合併前の地域ごとのお国自慢、自分たちの地域自慢をするというよりもむしろ、大きな目線で、高尾山なら高尾山を中心に、それを中心に据えた歴史文化があり、丘陵があつて川が流れて、そこに人が住む、という話のほうが特徴を出しやすいのかなという印象がある。
- ・ 加住地区のページに「植田孟縉墓」があるが、確か移転してきたもの。空襲の結果、

様々なところに移転してしまったものがあるので、そういった歴史的背景も把握して反映させていただければと思う。

- ・ 比較的、原始・古代・中世の項目が寂しい印象。考古学は分かりにくいということがあって、特徴化しづらいのかなと思っているが、流域ごとにみるとまた見方が変わってくると思うので、そういったスタンスも持ちつつやっていただけたらと思う。
- ・ 資源を体系づけていく、有機的に結び付けていくという意味で、非常に有意義な作業だと思う。天然記念物にも多少関心があるが、八王子は、天然記念物の指定がなかなか増えないという現状がある。八王子は「養蚕のまち」でありながら、高月のクワは枯れそうな状態である。大蔵院のイチヨウも住宅地に囲まれてしまっている。心字池がありヒキガエルの産卵場所ともなっていた真覚寺も、かつては天然記念物だったが、カエルが減り旧跡に改められてしまった。そんな中で、八王子ならではの植物などを含めると良いかなと思うが、そういった予定や考え方はあるか。例えば、片倉城跡公園には、山梨県、静岡県、東京都にしかないコバイモという植物があり、植物愛好家ならどんなに遠くても見に行きたいもの。東京では八王子のその場所にしかない。そういったものも文化財指定して良いと思う。八王子城跡にリンボクという木があるが、八王子でも限られた場所で見つからない。小田原や神奈川県沿岸部など、暖かい地方の常緑樹で、なぜそれが城跡にあるのか謎だが、北条一族が何かのために持って来て植えたのだと思う。いまでも八王子城跡の周りに小さい木が点々を見ついている。どこかに親木があるはずだが、見つからない。筋の通る話であり、ロマンでもある。北条一族が持って来たかもしれないリンボクを探すところからスタートして、点々とあるリンボクを探すツアーを催すなど、城跡をイメージ付けるひとつのイメージツリーになれば、自然のひとつの要素が歴史のストーリーの中に組み込まれていくということが可能。そんな植物があれば有効かなと思う。そういう意味では、リンボクも文化財として指定してしまって、付加価値を高められれば面白いのかなと思う。そういったものがほかにもいくつか八王子にはある。
- ・ 陣馬山では、山頂付近に昔、カシワの林があった。江戸時代初め頃から、江戸でも柏餅を作っていて、そこへ向けて葉を出荷していた。現代になって観光化されて、ずいぶん切り開かれて、カシワの木が減ってしまった。ただ、ゼロになったわけではなくて、部分部分で残っている。かつては江戸にも出荷していたカシワの林を復活させようということで、カシワはどんぐりの仲間なので、子どもたちと一緒に陣馬山にどんぐりを植えようみたいなことをやって、現代における自然の復元にもつながる大きなストーリーになると思う。なぜカシワを天然記念物にしていないのだろうと思っていたので、今回あわせて新規指定も考えてほしい。
- ・ 今回の歴史文構想において、今までのような文化財の保全から、資源として活用するということが政策転換として入ってきたということは大きい。ということは、資料にあるような文化財一覧の正確さ云々の前に、これをどう活用するのかというところが一番問われているのかなという認識で参加した。資料 3 に 7 つのテーマが挙げられてい

るが、このほかにもテーマが出てくるのかもしれない。新たなテーマが出てきたときに、未指定の文化財も入れるという議論も当然あって良いと思う。大事なのは、活用するための見地が必要。そこで、観光地がきちんとしたストーリーとして成り立つかどうかという目で7つのテーマを見た時に、自分の地域としては、これすごく良いよって皆さんおっしゃっても、実はほかのところにもあったりして、結果的に遺産にならないということがある。私は必要条件、十分条件という言い方をしているが、八王子市でまさにこれがあるから遺産が成り立つという必要条件の遺産と、八王子の遺産として十分だけ他のところにもあるという十分条件の遺産がある。たとえば「八王子城落城」「関東防御のまちづくり」「絹」など多くが十分条件でしかなく、必要条件といえるのは「千人同心」「高尾山」くらいなのではないか。

- ・ 景観的なポイントがあるかが重要。ストーリーがあるだけでは、活用できない。必要条件がそろっている「千人同心」「高尾山」のうち、千人同心は景観整備が今のところなされておらず、そうなると高尾山しか残らない。ただ、高尾山も自然の重要文化財としては打ち出されているが、柏餅の話は出たが、高尾山の文化的な景観というものが今はほとんどない。外国人が来ても登ってビールを飲んでいるだけ、高尾599ミュージアムで扱っているのも自然だけで、高尾山の文化面があまりクローズアップされていない。ストーリーがこれだけ書いてあるが、結局かなり限定されてしまうのでは。ストーリーをある程度限定したうえで、その要素をどうまとめていくか。
- ・ 文化的景観の場合は、景観整備計画を自治体で取りまとめる必要があるはずだが、今回は必要ないのか。  
→ 必要ない。(市)
- ・ 旧八王子地区のページなどいくつかのページに「オリンピック」が記載されているが、「政治」のカテゴリに入っている。印象としては、オリンピックと政治が一緒でよいのかなとは思う。
- ・ 宇都宮市の歴文構想概要版を見て、色分けして8つのテーマが並べられているが、それぞれのストーリーはあるんだけど、関連性が見えづらいまとめ方になっていると感じた。そういう意味では、資料の八王子の7つのテーマも、1個1個はほかの地域でも似たようなテーマがあると言われてしまうかもしれないが、こういうふうにしてつながっていった、八王子がこういう流れで現在に至っているんだという話が見えてきたら面白いと思う。最終形として概要版のようなものにまとめるときに、現代に結び付けることは大事だと思う。
- ・ 日本遺産の資料を見ていて、写真が結構載っている。インパクトのある写真を掲載するのが良いのだろうが、それが八王子にあるのかなと思う。  
→ 宇都宮のように強力なコンテンツがある地域では、大谷石一本を取り出して日本遺産にするというような組み立て方をしている。八王子市の場合は、テーマ1つを取ったらどこかにありそう。だが、うまく組み合わせる組み立てていくということをやらなければならないと思う。(市)

- ・ 関東周辺は絹にゆかりがあり、八王子においては、八王子の伝統的な素材の作り方、その柄が重要だと思う。製法など、独特で特色あるものを作ってきている。初めて八王子に来た時に、駅前で「織物の八王子」を知ってびっくりした。歴史を振り返りながら大事にしていったほうがよいと思う。現代の八王子を見ると、本当にファッションブルなものが八王子で作られている
- ・ 八王子で営業担当として働くなかで、織物に関する事業者さんに関わることが多く、現実はかなり厳しく、事業者も減ってきている様子を知っている。織物文化や染物屋さんなどをもう一度復活させようという動きが市内にいくつかある。局地的だが、染物を学びたい若手を育てる拠点が出来たり、オリジナルブランドのようなものをやろうとしている人がいたりする。昭和 30 年代に、八王子の織物産業はピークを迎えた。戦争で下火になったが、産業遺構を今の段階で守っていかないと、あと十何年かするとなくなってしまう。今生きているものをちゃんと守るべき。
- ・ 日本遺産のパンフレットをざっと見た時に、正直、似たり寄ったりだと感じた。歴史的建物、お祭り、自然など。テーマを多少絞らないと、登録しても目立つことは出来ないのではないかと感じた。八王子は歴史があって、色々発信したいところだが、このパンフレットを見て来るような人は、ある程度テーマを絞ったところに来るのではないか。例えば、軍事遺産に絞っていたりすると、特定のファンはすごく集まる。
- ・ 年齢層で観光の仕方が相当違うらしい。50 代以上は観光地を見に行き、そこで消費することを目的に動くが、それ以下の年代の方は、体験を重視する観光スタイルが主流になっている。観光資源を楽しむことから、体験できることに重視が移りつつある。そういった意味では、絹の事業者さんがいて、生きている産業があるということは、観光資源として強みになるのではと思った。
- ・ 織物のまちの古い歴史から現代につながったというのは良いが、今回のテーマに当てはまるか分からないものの、それが未来に向けてどうなっていくかというのは、考えなくて良いのかとは思った。昔だけを追いかけるのが歴史なのかというのはある。織物については、技術が発展して、生き残っているという意味では進化しているので、そういうものを追う視点があっても良いのではと思った。織物以外にも、先端技術や製造業の面でそういった視点も入れて良いと思う。  
→ 市もそのような視点を持っている。今の時点で 50 年 100 年建っている建築をどう守るかという話になりがちだが、今完成した建築で未来に文化財になるようなものもある。建築に限らず、産業などでも、そういったものをしっかり捉えていく必要があると思っている。(市)
- ・ 生糸について補足すると、まだ実際に八王子に桑畑が残っている。堀之内に 1 軒、古い蚕種を残している農家さんがいるが、相当高齢な方なので、サポートしないと絶えてしまう。一方で、創価大学の先生が桑の新しい活用方法を研究していて、蚕に食べさせるだけでなく、人間が桑の実を食べられるような研究開発もしている。そういった将来性もある。絹の道として有名な拠点もある。車のバイパスになっているので、

そこに行くまでがウォーキングには困難があるが。八王子はまだまだ、いろんなものがすくい取れると思う。絹については、町田や日野にもあるが、その中でも八王子は大きく取り上げて良いのではないか。

- ・ 事業の企画、フェスティバルや講演づくりを普段やっているが、この会は勉強させていただいた。行政の区域というよりも川や山、それによって人がどう動いたかという点でいうと、所属団体に、伝承のたまたばこを制作している最中だが、テーマが「古道」。八王子をめぐる古道を追いかけていて、広域で見ると、南北のラインが多い。地形による人の移動が、道を作ってきた。それを企画に起こして、道になぞらえた糸を使って音楽とともに届けるインスタレーションを作っている。鎌倉街道の物語も、全部台本に起こしているところ。縄文の時代には陸の民と海の民の交流があった。八王子だけでなく、もっと広いつながりを意識しては。確かに行政区域をまたがる物語があるので、村を分けたうえで共通点を探すよりも、最初から行政区域を外して発想してみても。自然と文化のつながりは必ずある。
- ・ 八王子の歴史文化をストーリーにすることは、景観というところでは非常に難しさがあると思った。
- ・ 5種類の八王子マップを作っているが、特に力を入れているのが天然記念物を網羅したマップ。その制作過程で、思わぬところでまったく知られていない巨木を発見することがあった。仲間で数年かけて制作しているが、とても間に合わないくらい八王子は広くて、いろんな方ともっと協力、協働しながら、隠れた巨木に日の目を見させてあげたいという思いがある。
- ・ 市内では、天然記念物の指定が少ない。隠れたものも、ぜひ新しく市指定天然記念物にしていきたい。  
→ 文化財は、行政と所有者の両方でこれまで守ってきたが、近年地域社会全体で守っていくという流れになっている。大切な物を指定して守っていくのはあるが、指定していないものをどうしていくのかも大事な視点になる。(市)
- ・ 日本遺産になった時に、ストーリーをどう観光方面に紹介していくかが自分の役割と思っているが、結構観光客の方は、単純な気持ちで来られている。例えば、インスタ映えなどそんなモチベーション。私たちも、PRするにしても、すごい歴史の話をするのではなくて、高尾山など簡単にご紹介をするようにしたり、八王子ラーメンなど美味しいものが食べられるなどということをしてPRしたりしている。そういったなかで、歴史遺産のようなものをどうPRしていけばいいのか難しさを感じてはいる。あまり難しい歴史の書類ではなくて、どなたが見ても分かりやすいものにしていただければ、観光客も分かりやすいと思う。
- ・ 観光客の入込客数だけが目的ではなく、むしろ、シティプロモーションとして八王子をどうブランディングしていくかということが大事。客数が少なくて収益が出なくて赤字になっても、八王子ってこういうところだねと分かるような感じになると、いろんな波及効果が出てくると思う。そういう目標設定があっても良いかなと思う。観光

については、幅広く考えたほうが良いかなと思う。

- ・ 日本遺産は、東京都にも日本政府にも、地域に元気になってもらいたいという意図がある。日本全国の国道沿いがすべて、安売りの靴店、車屋さん、パチンコ屋さんが並んでいるというのではなくて、八王子といえばこれ、という魅力を作りだしてほしい。その中で、近世や近代などの区分にとらわれないほうが良いと思う。文化庁で言っている文化的景観などではなくて、まさに皆さんが今暮らしている八王子の風景を広く文化的景観ととらえて、ブレストするのが良いだろう。
- ・ 八王子で、これから文化的景観は作っていけると思う。どうやってみんなが盛り上がる文化的景観を作れるのかがポイント。皆様がおっしゃっていた絹も、非常に切り口が多い。現代の産業にもつながっていて、いろんな道とつながりを持ち、「糸」というキーワードにも転じることが出来るので、絹という視点は割と良いのではないかなと思っている。
- ・ みんなが面白くないと文化的景観にはならない、このメンバーでもっと盛り上げられるような文化的景観を考えてければと思う。
- ・ 外国人は文化体験が大好き。新宿近辺では、ただ買い物しているだけだったりするが、何か面白いものがあれば、新宿や東京、羽田から八王子までの距離などものともせずいらっしゃる。何かひとつ面白い物があれば、その写真を撮って拡散したりして、そうするとあっという間に人が集まってくる。写真が楽しそうであることが大事ではないかなと最近思い始めている。皆さんのアイデアで、これが面白いと思うものをおっしゃってければ。

以上